

横濱、広島縣警務課長は、警議取締りのため十八日因島に向つた。

職工側遂に回答せず 工場では閉鎖の電命を待つ

因島工場争議の前途暗し

大阪鉄工所因島工場の労働争議は既報の通り工場側から職工側に對し四ヶ條の新提案を呈し十八日正午までに回答なき時は工場を閉鎖することになつてゐるが工場側の提案は職工側の要求と甚く異なり距離がある争議団は、首を大評定を聞いた結果、会社の提案に屈服することは出来ぬ閉鎖するならば勝手にせよと同日夕刻この旨を閉に入った職長代表に回答したので職長等は尚一應反省を求めたが遂にその後十八日正午に至るも職工側から何等の回答もなく遂にこの交渉も決裂したもので中間に止つた横畑職長は十八日正午この旨を大阪本社に打電したとして因島工場では唯一隻殘留せる大阪唐海高事の廣進丸を愈々十九日未明櫻島工場に向け出港せしめ、三正工場にあり出陣九は請員者で修繕中、三場閉鎖に就いて本社の電命を待つてゐる、同工場の最高幹部の語る處によると

「会社が提示したと云ふ四項中第一條を除く外は介在者の作らせたがの對見られぬが、あの第一條が塗部の生命で外には何物もないのであるを應せねば閉場する外はないでせう、而して閉鎖の場合解雇手當を支給するか否かについてはまだ決定してゐないが規定によるとストライキは關係したものに支給しないことになつてゐると、  
一方争議団では工場を閉鎖するが決して退陣しない先づ有力なる辯護士数名を招聘して批判演説會を開き解雇手當の要求もすると言ひ右報告のため争議団幹部小林唯一、大阪野武士組、瀬野某二名は十八日朝上阪した尚十八日夜因島中庄村で労働演説會が開かれた。

六月十九日 大阪朝日新聞記事

更に休校生を増した因島争議と工場の将来

因島労働争議に據る小學校児童の休校は前日より増加して十八日土生所は四百四